

テモテへの手紙第一5章21節 「えこひいきしない神」

1A 厳かな命令

1B 神の御前

1C 裁き主なる神

2C 裁きを任されたキリスト

3C 力強い御使い

2B 裁き司を裁かれる方

2A 先入観

1B 見た目

1C 心を見られる方

2C 純粋な心

2B 富や力による歪み

1C 貧しい人への接し方

2C 貧しい人へのおもねり

3B 異邦人

1C 信仰の違い

2C 民族や歴史の違い

3A えこひいき

1B えこひいきのない方

1C 父なる神

2C 主ご自身

3C 聖霊の賜物

2B 二人、三人の証人

1C 先に訴える者

2C 隠されていること

3B すべてに近い方

1C 最も小さき者

2C 後の者

本文

テモテへの手紙第一 5 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、第一テモテ 4 章まで来ましたが、来週、5 章を一節ずつ見て行きたいと思います。今朝は、5 章から 21 節を見て行きたいと思います。「私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちの前で、あなたに厳かに命じます。これらのことを先入観なしに守り、何事もえこひいきせずに行いなさい。」

テモテは、今、教会の監督として、いろいろな判断をしなければいけません。やもめを教会が世話する時に、すべての人を受け入れていいわけではないことを、パウロがテモテに教えています。そして、教会で指導の任についている人々について判断しなければいけないことがあります。長老に対する訴えをどうすればよいのか、考えなければいけません。長老が罪を犯しているという訴えです。もし、その判断が間違っていたらどうするのか？とてつもない重責です。そこでパウロが、このことばをテモテに与えました。

1A 厳かな命令

1B 神の御前

厳かに命じています。それが、とてつもなく厳粛です。「**神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちの前で**」と言っています。単に神の前で、ではありません。主イエス・キリストにあって、だけではありません。神とキリスト・イエスと、それから選ばれた御使いたちの前で、と言っています。つまり、テモテは、罪を犯している長老に対して、裁きの言葉、教会としての判決を下さないといけないのですが、これはまさに、テモテ自身が、裁き主なる神の前で裁判を受けているかのようです。つまり、テモテは神の代理人として、その長老を裁かなければいけないのですが、あくまでも神の裁きをもって裁くのであって、そこに自分勝手な裁きを招き入れてはいけない、ということです。イエス様が、「マタ 7:1 さばいてはいけません。自分がさばかれたいからです。」と言われた通りです。

1C 裁き主なる神

私たちの父なる神は、裁き主であります。「ダニ 7:9-10 私が見ていると、やがていくつかの御座が備えられ、『年を経た方』が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭髮は混じりけのない羊の毛のよう。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、火の流れがこの方の前から出ていた。幾千もの者がこの方に仕え、幾万もの者がその前に立っていた。さばきが始まり、いくつかの文書が開かれた。」主なる神は、文書をお持ちであり、そこに人々についての行いが書かれています。それらに従って裁かれます(黙示 20 章参照)。

2C 裁きを任されたキリスト

そして、父なる神はその子キリストに、その裁く権限をお与えになりました。ちょうど王がその世継ぎの子にその裁きの権限を与えるように、与えられたのです。「ヨハ 5:27 また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。」

主が、オリーブ山で語られた、羊とやぎの裁きのことを思い出してください。「マタ 25:31-33 人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。そして、すべての国の人々が御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、羊を自分の右に、やぎを左に置きます。」困っている者、窮している者、何も持っていない者、そういった最も小さき者にしたのは、わたしのしたのですと主は言われて、それ

で羊は永遠の御国に招き入れられ、やぎは、永遠の地獄に、ゲヘナに投げ込まれます。

3C 力強い御使い

そして、力強い御使いは、神の使いとして人々を見張っています。ネブカドネツアルのことを思い出してください。彼は、野の獣のようになってしまいましたが、それは「一人の見張りの者、聖なる者が天から降りて」来たからです(ダニエル 4:23)。そして、王が、「4:30 この大バビロンは、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が私の権力によって建てたものではないか。」と言った、「4:31 このことばがまだ王の口にあるうちに、天から声があった。「ネブカドネツアル王よ、あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。」」とあります。

このように、裁き主である神がおられ、その権限が任されているキリストがおられ、そして人を見張り、その思いや口さえ見張っている御使いがいるということです。主の前では、私たちは裸であります。「ヘブル4:13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。」

2B 裁き司を裁かれる方

聖書は、興味深いことに、裁き司のことをエロヒムと呼びます。そうです、エロヒムは神とか神々と訳されているものです。裁き司のところに人が連れて来られる時に、「彼を神(エロヒム)のもとに連れて行く」とあります(出エジプト 21:6)。なぜか？それは、裁くということは、神のすることだからです。裁くことによって、その人の運命は定められます。それだけの力を持っているのは、神だけであり、人は神を恐れて裁くことしかできません。

もし、裁き司が勝手に裁いたらどうなるのでしょうか？彼らに対する裁きが書かれているのが、詩篇 82 篇です。

- 1 神は神の会議の中に立ち神々のただ中でさばきを下す。
- 2 いつまでおまえたちは不正をもってさばき悪しき者たちの味方をするのか。セラ
- 3 弱い者とみなしごのためにさばき苦しむ者と乏しい者の正しさを認めよ。
- 4 弱い者と貧しい者を助け出し悪しき者たちの手から救い出せ。
- 5 彼らは知らない。また悟らない。彼らは暗闇の中を歩き回る。地の基はことごとく揺らいでいる。
- 6 わたしは言った。「おまえたちは神々だ。みないと高き者の子らだ。
- 7 にもかかわらずおまえたちは人のように死に君主たちの一人のように倒れるのだ。」
- 8 神よ立ち上がって地をさばいてください。あなたがすべての国々をご自分のものとしておられるからです。

自分たちが神自身であるかのように高ぶっている裁き司に対して神が正しく裁かれていることを

示しています。

2A 先入観

そこでパウロは、テモテに対して、「**これらのことを先入観なしに守り、何事もえこひいきせずに行いなさい。**」二つのことを教えています。一つは、先入観なしに守りなさいということです。

1B 見た目

私たちはどうしても、先入観を持ってしまいます。その大きなものは「見た目」です。

1C 心を見られる方

見た目の良いものを良いとし、そうでないものを悪いとしてしまいます。イスラエルの民が王を要求した時に、選ばれたのはサウルでした。彼は「I サム 9:2 美しい若者で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった。」とあります。見た目からして、王にふさわしい人です。しかし、彼は主の声に聞き従わない人でした。主が預言者サムエルを、ベツレヘムにいるエッサイの家に遣わします。そこに、主ご自身の選ぶ王がいるとのことです。長男のエリアブを見ました。サムエルは、「きっと、主の前にいるこの者が、主に油を注がれる者だ。」と思いました。ところが主が言われます。「16:7 彼の容貌や背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るように見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」人はうわべを見ます。けれども、主は心を見ます。

イエスご自身が、ユダヤ人の指導者たちにこう言われました。「ヨハ 7:24 うわべで人をさばかないで、正しいさばきを行いなさい。」イエス様が、安息日に足なえを治されたので、それが仕事に当るといって、安息日を破っていると責めていました。しかし、彼らは生後八日目の男の赤ちゃんに、その八日目が安息日でも割礼を施します。こうやって、彼ら自身が、ある時は人々を癒やすことを労働だと責めているのに、他の、割礼という医療行為に近いことをしていることには黙っているのです。しかし、私たちはどんなに、表面的なところで人を裁いていることはないでしょうか？

2C 純粋な心

先入観は、私たちがこれまで見聞きしたことによって、また心が歪んでいるので積みあがっていきます。先入観は避けられませんが、しかし、神の前では大きな過ち、罪を犯すことになりかねません。イエス様が、聖霊の力で奇跡を行われていて、それを見れば、明らかにこの方が来るべきメシアであることが分かるのに、パリサイ人たちは、「マタ 12:24 この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼベルによるものだ。」と言いました。素直にそのまま見れば、明らかに見えるものを、そうではないと思い込み、さらに偽りの中に陥っています。

純粋な心を私たちは求めないといけないですね。「I ペテ 2:1-2 ですからあなたがたは、すべて

の悪意、すべての偽り、偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のよう
に、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」

2B 富や力による歪み

1C 貧しい人への接し方

そして私たちは、金持ちや力のある人におもねる傾向があります。ヤコブが、手紙の中でこのことを厳しく叱責しています。「2:1-4 私の兄弟たち。あなたがたは、私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰を持っていながら、人をえこひいきすることがあってはなりません。あなたがたの集會に、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来て、また、みすぼらしい身なりの貧しい人も入って来たとします。あなたがたは、立派な身なりをした人に目を留めて、「あなたはこちらの良い席にお座りください」と言い、貧しい人には、「あなたは立っていなさい。でなければ、そこに、私の足もとに座りなさい」と言うなら、自分たちの間で差別をし、悪い考えでさばく者となったのではありませんか。」教会で案内する人が、どうしても身なりの良い人、裕福に見える人を尊び、そうでない人を軽視する傾向があります。

アメリカや韓国ですと、キリスト者の政治家が多く、選挙活動が始まると教会に訪れることがあるそうです。その時に、「重要人物ではない、神の前では、すべての人が等しく神にとって重要なのだ。」と言っています。韓国の牧師さんも、実際に偉い人が教会に来たそうですが、何も特別なことはしなかったそうです。主にあって、すべての人が大切なのですから、そのように接していかないといいません。

2C 貧しい人へのおもねり

裁きをする時に、富んだ人であれば賄賂を受け取れる誘惑があります。それに対して律法は厳しく戒めています(出エジプト 23:6-8)。しかし同時に、弱い者にひいきもしてはいけないことも教えています。「レビ 19:15 不正な裁判をしてはならない。弱い者をひいきしたり強い者にへつらったりしてはならない。あなたの同胞を正しくさばかなければならない。」弱い人も、主の前では同じように罪人です。弱い人がかわいそうだとして、その人が嘘を証言しているかもしれないのに、そのまま信じて受け入れてしまう過ちもあります。

3B 異邦人

そして、先入観を抱いてしまうのは、自分と違う背景を持っている人々に対するものです。パウロは、「ガラ 3:28 ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。」と言いましたが、見事に、この違いで互いに先入観を持っている場合が多いですね。女は男に対して、男も女に対してあります。その中でも、新約聖書時代に最も大きかったのは、ユダヤ人と異邦人の違いです。

1C 信仰の違い

あまりにも違うと、先入観どころか、自分たちの関心の外にあります。ユダヤ人にとって、ギリシア人やローマ人はそういった存在だったでしょう。けれども、サマリア人は違います。アッシリア捕囚の時に、イスラエルにやって来た異邦人と残っていたイスラエル人との間にできたのが、サマリア人です。そして、彼らは異教とイスラエルの信仰を混淆させて、サマリア教を作りました。エルサレムではなく、シェケムにあるゲリジム山が、神の礼拝するところとしました。このように、信仰のつながりがあっても、決して同意できない違いがあるので、それで、サマリア人に合えば身構えてしまうのです。

2C 民族や歴史の違い

そして何よりも、彼らの間には歴史から来る対立がありました。ユダヤ人たちがバビロンから帰還して、神殿を再建するも、周囲のサマリア人たちが共に建てたいと申し出たら、きっぱりと断りました。そこからサマリア人はユダヤ人を憎み、またユダヤ人もサマリア人を憎みました。その中で、イエス様は、サマリアの女に会い、また良きサマリア人の話をユダヤ人にされたのです。ユダヤ人の弟子たちは、サマリアの女に話しているのを驚いていましたが、彼女こそが、またサマリア人たちこそが、主をメシアとして受け入れ、使徒の働きでは彼らの間にリバイバルが起こったのです。ですから、先入観なしで人々を見る訓練が必要です。

3A えこひいき

そしてパウロは、「**何事もえこひいきせずに行いなさい**」と言いました。

1B えこひいきのない方

1C 父なる神

私たちの神は、えこひいきのない方です。「申 10:17 あなたがたの神、【主】は神の神、主の主、偉大で力があり、恐ろしい神。えこひいきをせず、賄賂を取らず、」とされています。えこひいきされる方ではないのです。

2C 主ご自身

イエス様も、人目を気にする方ではありませんでした。主がエルサレムにおられた時に、何とかして言葉尻を取って、ローマ当局に訴えようと、ユダヤ人指導者たちは画策していました。そして、このように言ったのです。「ルカ 20:21 先生。私たちは、あなたがお話しになること、お教えになることが正しく、またあなたが人を分け隔てせず、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。」主は、人を分け隔てする方ではありません。

3C 聖霊の賜物

そして、神の聖霊は、分け隔てなく与えられます。ペテロが、カイサリアにいたコルネリウスの一

家のところに行きました。彼らが福音を聞いていると、聖霊のバプテスマが与えられました。それによって、ペテロは悟ったのです。エルサレムでの会議で、彼は全体に言いました。「使 15:8-9 そして、人の心をご存じである神は、私たちに与えられたのと同じように、異邦人にも聖霊を与えて、彼らのために証しをされました。私たちと彼らの間に何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。」

2B 二人、三人の証人

このように、神は徹底的にえこひいきされる方ではありません。ですから、裁きにおいても、えこひいきから完全に自由にされてないといけません。律法の原則に、二人、三人の証言があって、初めてそれが事実を確認される、というものがあります(申命 19:15)。それでパウロはテモテに、「5:19 長老に対する訴えは、二人か三人の証人がいなければ、受理してはいけません。」と言っているのです。

1C 先に訴える者

箴言にこう書いてあります。「18:17 最初に訴える者は、相手が来て彼を調べるまでは、正しく見える。」これは、人間の罪ですね。二人、三人の証言によって事実と確認できるのですが、一人だけの訴えだけで、どうしてもそのことに影響を受けてしまいます。けれども、それを厳に戒めないといけません。話半分ではないですが、自分はすべてのことを聞かされているのでは全くないのだ、という慎み深さが必要なのです。

2C 隠されていること

そして、たとえいろいろな証言があっても、私たちは神の前に、自分がすべてを知っているわけではないことを告白すべきです。パウロが、テモテに隠れたことを明らかにするのは神であることを教えました。「5:24-25 ある人たちの罪は、さばきを受ける前から明らかですが、ほかの人たちの罪は後で明らかになります。同じように、良い行いも明らかですが、そうでない場合でも、隠れたままにいることはありません。」

3B すべてに近い方

そして最後に、主がえこひいきをされないということは、みなさん一人一人を等しく、大事に思っておられるということを知ってください。私が衝撃を受けた一言を、牧者チャック・スミスが言いました。それは、「私が神にとって大切であるのと全く同じように、あなたも神にとって大切なのだ」ということです。私にとって、チャック・スミスは神に近い人で、自分はそこまで近づいていないと思っていました。しかし、チャックがあれだけイエス様に親しくしているのを見ていましたが、実はイエス様は同じように近くいてくださるのだ、と知ったのです。これは恵みです。

1C 最も小さき者

イエスは、そこで敢えて、ご自身を最も小さき者と一つにされました。「マタ 25:40 まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」

2C 後の者

そして、後の者たちを敢えて先に持って来ました。あの五時から雇われた人たちのことです。朝から雇われた人たちと全く同じ労賃を受け取りました。結論は、「マタ 20:16 このように、後の者が先になり、先の者が後になります。」ということです。

最も小さいと感じていても、後の者と感じていても、主は等しく大事にしておられます。祈りも、等しく近く聞いてくださっています。主はえこひいきなされない方なのです。